

ハドソン川を挟んで

米国コロンビア大学からの便り ③



経済学部教授

高橋宏幸

Hiroyuki Takahashi

16年ぶりの氷結解けて…

サクラの季節の卒業式

5月ともなればニューヨークも冬の厳しさから解放され、木々も一斉に新緑で一杯になり、サクラやハナミズキそれにツツジがここぞとばかり花開く。特に今年は十数年振りにハドソン河が氷結したこともあり、雪と氷に閉ざされていた世界から解放されたという印象がことのほか強い。コロンビア大学で学ぶ学生にとつてもこの5月は感慨ひとしおの時期でもある。

ちょうど5月の第四週からは、卒業式が始まり最終試験にパスし晴れて卒業式を迎えた学生達の姿でキャンパス一杯になる。例の、角帽をかぶりガウンまとった姿は、いかにもコロンビアの学生といたいであち

で、普段見かける学生より知的な印象さえ感じるのには私だけであろうか。在學生や卒業生が自分の大学に誇りを持つのは何もコロンビア大学に限ったことではなく、アメリカの大学全般にあてはまりそうである。卒業を迎える学生が記念として大学グッズを買い込んでいる光景を目の当たりにし、中央大学でも似たような大学グッズが生協で売られていたことが思い出される。大学名入りのTシャツ、パーカーはこちらでも大学グッズの定番で、これを着込んだ姿はかなり目立ち、さながら歩く広告塔である。さらに、アメリカにはあっても、日本に無いものと言えば、自動車のリヤウインドウに貼り付ける大学のロゴマークと大学名の入ったシールがすぐに思い浮かぶ。これは走行中に否が応でも目に入り込む

でくるもので、お陰でこれまでに随分といろいろな大学名を目にしてきた。そうしたなかで、ハーバード大学ともなると圧倒的なステイタス・シンボルであるが、時々目を疑いたくなるようなオンボロ車に貼られた風采の上がらない親父が運転しているたりすると、何だかハーバード大学が地に落ちてしまったような錯覚に

陥ってしまう。

デイベートも自在な韓国系学生

ところでコロンビア大学のキャンパスを歩いているとアジア系の学生をかなり目にする。彼らが日本人なのか、韓国人なのか、それとも中国人なのかは、見た目では区別できない。それが、講義に出席してみると、



中国の墨絵の前で、アシスタント・ディレクターのマイレ女史＝チェイゼン研究所

ほとんどネイティブな英語で流暢に報告したりデイベートに参加するのが韓国人や中国人で、日本人はまるで齒が立たない。韓国人の場合、ベトナム戦争で米国に協力して韓国が参戦した関係で、戦争後実に多くの韓国人が米国に移り住み今ではその第2世代が大学へ入学したり、卒業し、アメリカ社会で活躍しているわけである。アメリカ国籍を持つ彼らはルーツが韓国であるにすぎず、ファーストネームはスーザンやマイクで、

韓国語より英語で喋るのがずっと楽
という実態である。

私の住むニュージャージー州もか
つて日本人商社マンや金融関係の人
達が大勢居た町で知られるフォート
リーが今では韓国人が圧倒的に多く、
現地の公立校では韓国人の生徒の
占める割合がアメリカ系白人を抜い

てトップになったと聞いている。こ
のフォートリーばかりでなく、評判
の良い中学、高校がある地域に韓国
人が移動して来るため、町はたちど
ころに韓国人の割合が増え、店の看
板はもろんのこと、標識までハン
グルで溢れてしまい、ここはアメリ
カなのかそれとも韓国なのかと首を



コロンビア大学の入口に並んだ構内パトカー

ひねってしまうことも
少なくない。こうした
町では、韓国系のスー
パー・マーケットの充
実した品揃えのお陰で、
日本食品をはじめとし
て日常生活にほとんど
不自由せず、われわれ
日本人は少なからず恩
恵を受けている。
かれらの教育熱はす
ざましく、子供の教育
のためには職業を変え
る親も珍しくなく、く
わえて韓国系進学塾の
進学実績のすごさは目
を疑うばかりである。
ハーバードをはじめと
した有名校総なめの勢
いで、こうした大学進

学への過熱ぶりの結果がそのままコ
ロンビア大学に占める優秀な韓国人
学生の数にあらわれていると言えよ
う。

気になる日本勢の後退

このニュージャージー州に隣接す
るニューヨーク市にあるコロンビア
大学の場合、アジアの国のなかでの
日本の占めるウェイトが後退してい
ることは否めない。私が籍を置く、
ビジネス・スクールでこうした傾向
が強いのは長引く不況と日本企業の
業績不振とも関係がありそうだと。
というのは、かつてビジネス・スクー
ルを中心とした海外の有力大学院に
多くの社員を留学生として送り込ん
できた日本企業が海外留学制度を取
りやめたり、大幅に規模を削減した
ため、そうした学生の姿がめっきり
少なくなったからである。現在、こ
こコロンビア大学ビジネス・スクー
ルに在籍する数少ない日本人学生の
ほとんどは会社を辞めたり、休職し
てMBA取得によって新たな人生を
賭けている人達で、後がないため頑
張りようも一筋縄ではない。他方、
今や日本人学生の拠点ともなつて

いるのが、コロンビア大学国際公共
政策大学院 (Columbia's School of
International and Public Affairs)
でここには日本の官庁から若手の
官僚が沢山送り込まれてきており、
毎年30名前後にのぼる日本人が修士
号を授与されている。

こうした正規の学生として入学し、
卒業するもの以外に、私のように
研究者として籍を置く日本人もかな
りいる。ビジネス・スクール内に設
置され、パトリック教授を所長とす
る日本経済経営研究所 (Center on
Japanese Economy and Business) は、
日本の大学や企業それに官庁から研
究者をコロンビア大学に受け入れて
きた代表的なところで、これまで
ここに籍を置いた日本人の数はかな
りにのぼる。私の場合、それとは別
のチェイゼン研究所 (The Chazen
Institut) が受け入れ窓口であった
関係で、日本経済経営研究所とは直
接関係はなかったものの、そこに来
ている日本人研究者とは同じ日本
人ということで何かとお付き合い戴
いている。そうした研究所でも、日
本人の数が減少傾向にあることは寂
しい限りである。